

## 2 地域課題（高齢者の支援をする担い手）解決のための検討

地域課題 担い手が不足している。			
当該地区 <input checked="" type="checkbox"/> 市全体 <input type="checkbox"/> 佐屋地区 <input type="checkbox"/> 立田地区 <input type="checkbox"/> 八開地区 <input type="checkbox"/> 佐織地区			
問題点 ・担い手が集まらない ・担い手をしたいという人が実際に参加に結び付いていない			
解決案	左記に必要な支援	アイデア	具体策
個人でできること 1. ライフスタイルに合わせて参加する。  2. 地域の担い手になることに興味を持つ。  3. 日頃からご近所付き合いを積極的に行う。	→無理なく活動できると感じてもらえるように工夫する。  →地域の担い手についての知識を深める。  →幅広い世代に担い手について考える機会に触れてもらう。  →住民同士の交流の機会を増やす。	⇒①無理なく続けられそうだと思ってもらえるように支援や活動の“みえる化”を行ったり、仕組みを作ったりする。  ②「もしもトラブルがあったら」という心配に対するサポートを行う。  ⇒地域の担い手に関する現状を知ることができる機会を作る。 （担い手になることが、災害など特別な時のことではなく、日常的なことであると感じられるような機会を作る）  ⇒若い世代にもボランティアに触れてもらう機会を増やす。  ⇒住民同士が交流できるイベントを開催する。	① 担い手の活動内容の一覧を作成する。 「ゴミ出し」などの具体的な項目について、ボランティア希望者が登録できる仕組みを作る。 養成講座に参加しなくても小さなことから始められる仕組みを作る。  ② 活動中の担い手については相談先がすでに決まっている為、新しく担い手になる人に相談先を周知し、いつでも相談できる旨を説明する。  あいさいさん祭りで地域の担い手の活動を紹介する。 例)・活動内容の一覧を作成して配布する。 ・公園のトイレの清掃や近所の花壇の草取りなどがどのような担い手によって行われている等。  福祉まつり等のイベントで学生にボランティア体験をしてもらう。 参加された人に体験談を発信してもらう機会を作る。  協議体主催で地区のサロンや老人クラブに声を掛け、住民同士が交流できるイベントを開催する。

解決案	左記に必要な支援	アイデア	具体策
<p>地域、事業所の取り組みでできること</p> <p>1. 担い手やボランティアについて幅広い世代の人に知ってもらう。</p> <p>2. 介護支援専門員等つなぎ役になる人へ、担い手に関する情報を周知し、担い手に依頼しやすい体制を作る。</p> <p>3. 募集方法を改善する。</p>	<p>→幅広い世代へ情報発信を行う。</p> <p>→介護支援専門員等へ周知を行う。</p> <p>→募集方法を改善する。</p>	<p>⇒①SNS等で情報発信する。</p> <p>②地域の担い手に関する現状を知ることができる機会を作る。</p> <p>⇒①介護支援専門員等へ周知する機会を作る。</p> <p>②介護支援専門員等に担い手となる団体の話を聞いてもらう機会を作る。</p> <p>⇒①SNS等を活用して募集する。</p> <p>②（施設でのボランティアの場合）事前に見学してもらう。</p> <p>③（事業所が）地域の人と関わる中で、定年したばかりの人や興味がありそうな人に声を掛ける。</p> <p>④生活支援コーディネーターや地域包括支援センターが自治会と協力する。</p>	<p>① 愛西市のLINE、X（エックス）、ホームページ等に、担い手の募集や養成講座について情報を投稿する。</p> <p>② あいさいさん祭りで地域の担い手の活動を紹介する。</p> <p>① ケアマネオンラインサロン※で担い手に関する情報を伝える。 ・介護支援専門員等が団体に直接依頼するのではなく、地域包括支援センターや生活支援コーディネーターへ相談してもらう体制を周知する。 ※月1回、地域包括支援センターが主体となり、介護支援専門員とオンラインで情報交換をする場のこと。</p> <p>② シルバー人材センター等の団体がケアマネジャー等に話をする機会を作る。</p> <p>① 愛西市のLINE、X（エックス）、ホームページ等に、担い手の募集や養成講座についての情報を投稿する。</p> <p>② 施設ボランティアの希望者には施設を見学してもらい、やりたいことのイメージを絞り込めるように支援する。</p> <p>③ 介護支援専門員や介護サービス事業所に担い手に興味がある人に声掛けをしてもらえるように依頼する。</p> <p>④ 自治会で生活支援に協力してくれる人を紹介してもらう。</p>
<p>公的サービス化、制度化の検討が必要なこと</p> <p>1. 担い手不足の実態を把握する。</p>	<p>→担い手と頼みたい人の数を把握する。</p>	<p>⇒①現状を正しく把握する。</p> <p>②どんな内容の支援が何人必要なのかを調査する。</p> <p>③具体的な目標を設定する。</p>	<p>① 訪問介護（生活援助）の実績や、訪問型サービスBの実績を集計し、訪問型サービスBについては、依頼を受けられなかった数についても集計する。</p> <p>② 地区毎にどんな内容の支援が何人必要なのかを集計する。</p> <p>③ 具体的な目標を設定する。</p>